

## 信長と家康の富士見物

市民学芸員 内藤 恒義

織田信長は尾張、美濃、近江を押さえ京へ出た。松平(徳川)家康との同盟は約20年続いていた。

信長は西へ西へと版図を広げたが、東へは進まなかった。今川、武田氏の押さえを家康に任せていた。

天正10年(1582)2月6日、織田軍はいよいよ武田勝頼を覆滅するため、武田勢力圏である信州に馬を入れた。高遠城を落とし、甲州へ進む。その後3月11日、勝頼は天目山近くの田子で自刃した。

家康は、2月18日、浜松城を陥し、駿河に進んだ。田中城を落とし、江尻城では武田一族の穴山梅雪を調略し、21日駿府へ入る。家康は、この戦の功で信長より駿河一国を与えられた。

信長は甲州を平定した後、帰路は東海道を経た。富士山は東海道の駿河から見るのが最も美しいという古来の定評があった。美しい富士を見るための帰路だったとも考えられる。

このとき、家康は信長を接待することにした。以下、帰路をたどって見ていくと、家康の信長への接待の気配りが見えてくる。

4月10日、甲府から笛吹川を南へ、姥口で泊まる。この川には橋がなく、家康は人夫を動員し橋を架けた。また甲府から姥口までの道路や宿館も整備したという。『信長公記』には信長が「奇特御感なされ候」と家康の接待に感心したことが記されている。

11日、女坂から山に登って谷に臨んだ場所で昼食をとる。ここでは道の整備や多くの建物を用意したことが記されている。その後、泊まりは富士山の北西麓本栖湖畔であった。

12日、神野ヶ原、井手野(富士宮市)で信長が富士山を見た。その富士の様子は「雪積りて 白雲のごとくなり」と記されている。他に人穴や白糸の滝を見物。ここでも家康は準備よく茶亭を建てていたという。この日の泊まりは富士浅間神社であった。家康本人はここで信長を迎えた。信長は家康に、秘蔵の脇差などを与えた。

13日、浮島ヶ原から富士川を渡る。蒲原に入り、興津の沖に立つ白波、三保の松原を見た。泊まりは



富士山本宮浅間大社から見る富士山  
静岡県公式サイト「世界遺産 富士山とことんガイド」より転載

江尻城。14日、駿府の中町口で茶を喫し、この夜は田中城で一泊。

15日は掛川に泊まり、翌16日、天竜川を渡った。ここで家康は舟橋をかけた。これは「上古より初めてのこと也」と記されている。ここにも家康の心遣いがみられる。この日は家康の居城浜松に泊まる。

そして4月21日、近江安土城へ帰着。信長の凱旋旅行の期間はわずか11日間であった。その40日ほど後の6月2日、本能寺の変で突然の死を迎える。

この時、家康は信長に招かれ、京、堺の見物をしてきた。6月2日には信長に御礼を申し述べるべく京へ向かっていた。一向は道中で信長の死を知る。

その後、上方から脱出。出発地点は淀川畔の枚方であった。ここは大坂と京都との中間点、この川港から家康達は真東へ走り山城国相楽郡へ入った。そして木津川の溪流を渡る。その後、間道をつたって伊賀境の山中を抜け、5日後、無事浜松へ戻ることができた。

『接待するより

される方がむずかしい』

と家康は家臣に言ったかも？このわずかな間の転変に歴史のドラマを感じ取ることができます。

(参考文献)『霸王の家』司馬遼太郎、『信長公記』、『徳川実紀』

市民学芸員のページ \*このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

城跡シリーズ④ 『サイカチ(皂莢)』

公園開園前、内堀跡に堆積した地層に含まれる樹木の花粉が分析されました。その結果、戦国期の地層から採取された花粉のうち大半が、サイカチの花粉だったことが判りました。

サイカチは、行田市にある忍城おしや坂東市の逆井城さかさい、江戸城、小田原城などの城郭でも、分析の結果、その花粉が特異的に出現していることから、城内にあえて植栽されていたと考えられています。また城との関係ははっきりしませんが、板橋区の赤塚城跡や所沢市の滝の城跡の付近にも生えています。

サイカチは、マメ科の落葉高木で、高さ 20 m、幹の直径は 1 m 以上に達します。また、30 cm ほどの莢さやが垂れ、実は平たく、莖、枝にはとげがあります。莢は、石鹸のような働きも持つサポニンを含み、洗濯用として利用されたといえます。園内ガイドツアーの参加者から、戦時中、石鹸不足のため、サイカチを使い洗濯をしたという話を伺ったこともあります。

また夏には、サイカチの樹液を求めてカブトムシが集まります。そのことからカブトムシを別名「サイカチムシ」ともいい、南畑の方言では「セイカチ」と呼びました。(稲植保美)

(参考文献『富士見文化財報告書第 50 集難波田城跡』『難波田城のすべて』)



サイカチの枝  
出典：庭木図鑑 植木ペディア



サイカチの莢  
出典：ウィキペディア

おもしろ・なつかし体験⑤8

しおり作り

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

「しおり」。本の間にはさんで皆さんもきっと一度は使ったことがあると思います。

4月22日のちょこっと体験は押し花での「しおり作り」でした。四季折々の花や葉を、雑誌等ではさみ、押し乾燥させたものを使いました。

参加者の皆さんは、思い思いのデザインで台紙に花や葉を置きます。しかし、なかなか思い描くイメージどおりにはいきません。子どもたちは花や葉をいっぱい使いはなやかに、お父さんやお母さんは、考えながらゆっくりと楽しんでいました。

できあがったしおりを手にした皆さんの笑顔は、とても素晴らしく、こちらもうれしくなりました。

一つとして同じものがない自分だけの「しおり」。大切に使っていただけることと思います。

(岡田栄子)



花や葉を押しして…



しおりに仕上げる。

## 人の創ったもの★人の使ったもの

## 富士見の里神楽を伝えるもの

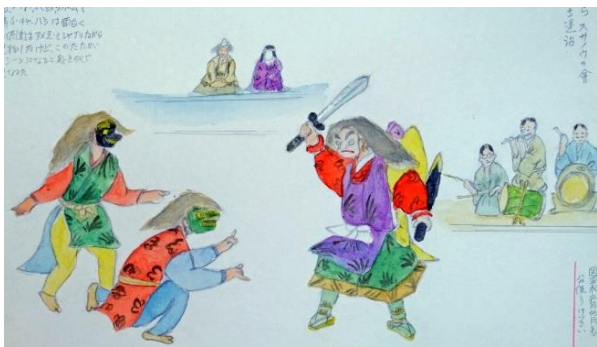
企画展『里神楽と面師』3/10～6/10

## スケッチに残された里神楽

開催中の企画展では、市内の里神楽を紹介しています。里神楽とは民間に伝わる神楽の総称で、宮廷に伝わる御神楽に対する呼び名です。神楽は、神社の祭礼で神様のために舞うもので、人々は畏敬の念をもって「お神楽」と呼んできました。

市内には、依頼を受けて神楽を舞う神楽師だった家が2軒あり、1軒は今でも活動しています。その「鶴馬の太夫・齊藤家」が神楽を奉納しているのは市内では3カ所の神社だけですが、昭和20年代頃までは多くの神社で神楽が見られました。水子地区では「十八神楽」という表現があったほどでした。

渋谷喜太郎さん(1907-1993)は、大正時代から昭和初期の南畑地区の思い出を約800点ものスケッチに描き残しましたが、そのうち18点が祭礼での神楽を描いた作品です。説明文を添えて描かれた絵からは、当時の人々が神楽見物を楽しんでいた様子が窺えます。下の絵の説明文には「この神楽をよく見物した。笛・太鼓のリズムで舞うチャンバラは面白く、子供達も息をのんで見ていた」とあります。



里神楽「スサノオの命 おろち退治」/渋谷喜太郎画

## 南畑の太夫 鈴木家

2軒のうちの1軒、鈴木家は上南畑神社の神官を代々務めていた家柄です。江戸時代の終わり頃、重寿が三芳町竹間沢の前田太夫家から婿入りして神楽師を兼ねるようになりました。二代目太善、三代目重治と続き、昭和43年(1968)頃まで神楽を奉納していました。

奉納先は、上南畑神社の他、下南畑地区の八幡神

このコーナーでは、地元に関する資料を紹介します。今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。



鈴木家に伝わる神楽道具

社、水子地区の上組氷川神社、山王坂氷川神社などでした。上の写真は、昭和61年(1986)頃、市史編さん室の調査で撮影したものです。神楽面は、器用だったという前田家の左近(1838-1886)または民部(1856-1926)が製作したと伝えられています。

## 鶴馬の太夫 齊藤家

齊藤家は、江戸時代に先祖が相模国(現在の神奈川県)から鶴馬村に移り住み、墓碑や家伝では宇太郎、出羽、蔵人、重郎兵衛、與三郎、一夫(1913-2005)の6代が神楽を伝えてきました。現在は一夫氏の弟子が各地での神楽奉納を受け継いでいます。

一夫氏が、厳しい父や東京の神楽師の元で習得した演目は、御潔三筒男神、天孫降臨、日本武尊、八雲神詠、伊吹山など30曲以上でした。お弟子さんたちは平成10年(1998)頃から舞の指導を受け、15～16演目を習得しました。「丁寧で親身に教えてくれる素晴らしい先生」だったそうです。

企画展では、齊藤社中(社中…まとまり)からお借りした神楽衣装と道具、約25点を展示しています。



「武内宿禰」の衣装/齊藤社中蔵

舞方が身につける木彫りの神楽面やきらびやかな衣装、囃子方が使う鳴り物(楽器)の大拍子や大太鼓などから、神だけではなく人々をも惹きつけてきた“力”を感じ取っていただけたら、幸いです。(駒木 敦子)

## \* \* 夏のイベント予定 \* \*

### ●マイミュージアム

#### 「北関東の城をめぐる」

主催／富士見市古城をめぐる会

会期／7月21日(土)～8月11日(祝)

会場／特別展示室

#### 「横田綾子日本画展」

会期／8月18日(土)～9月17日(祝)

会場／特別展示室

### ●じゃがいも掘り

とき／6月17日(日)午前10時～正午

集合場所／旧金子家住宅前(畑は公園の隣です)

定員／30組(申込順) 参加費／1組1000円

主催／難波田城公園活用推進協議会

申込み／6月2日(土)午前9時から電話で

### ●竹かご教室

「六ツ目かご」を作ります。

とき／6月24日(日)午前9時半～午後4時

会場／講座室 対象／中学生以上

定員／12人(申込順、初参加優先)

参加費／1000円

指導／資料館友の会竹かご部会

申込み／6月1日(金)～7日(木)午前9時から電話で

### ●糸つむぎ(糸車)体験

とき／8月2日(木)、8月9日(木)

午前10時～正午、午後1時～3時

(体験は5～10分程度)

会場／旧大澤家住宅 対象／子ども～大人

指導／資料館友の会木綿部会

### ●ふるさと体験「藍の生葉染め」

藍の葉で絹のストールを染めます。

とき／7月28日(土)午前9時30分～正午

※雨天の場合は29日(日)に延期

会場／旧金子家住宅 材料代／2000円

定員／10人(申込順、初参加優先)

指導／河野悦子氏(染色愛好家)

申込み／7月1日(日)～5日(木)に電話で

### ●子ども裁縫教室

縫い物の基本を習い、作品を作ります。夏休みの宿題にも!

とき／8月1日(水)午前10時～午後2時

会場／講座室

対象／小学生～中学生

定員／15人(申込み順) 参加費／300円(材料代)

作品／どちらかを選択

きんちやく袋(初心者向け)

ショルダーバッグ(経験者向け)

指導／美楽の会

申込み／6月30日(土)午前9時から電話で

### ●夏休み古民家宿泊体験

古民家に泊まって、昔の暮らしを体験しよう!

とき／8月11日(土)午後1時～12日(日)午後2時

内容／竹細工(コップや箸)、手打ちうどん作り、ごえもん風呂、七輪で焼き魚など

対象／市内在住の小学4～6年生

定員／16人(申込順) 参加費／1500円(材料費・食費)

申込み／7月1日(日)午前9時から電話で

### ●早朝の蓮を見学できます

蓮が見ごろを迎える、6月9日(土)～7月8日(日)の土・日は、午前6時に開園します。なお、資料館や古民家は通常どおり午前9時開館です。

早寝・早起きで  
元気な夏を!



### ●ちよつ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

6月17日(日)ふかしいも

7月22日(日)流しそうめん

8月はお休みです。

※他にも様々なイベントがあります。各イベントの詳細は、広報ふじみやポスター、チラシ、公式サイトなどでお確かめください。

田舎まんじゅう販売

第1、3日曜日10:30～

お月見亭(予約制手打ちうどんランチ)

6月12日、7月10日 11:30～13:30

※8月はお休み



難波田城  
FUJIMI MUNICIPAL MUSEUM

富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

<http://www.city.fujimi.saitama.jp/30shisetsu/11nanbadajyo/index.html>

◆休館日/月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間/午前9時～午後5時

◇公園休園日/なし 開園時間/午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)



資料館公式サイト